

めぐろWalk特別編

目黒区のとある街角。

多くを語らず、じっと、
ずっと昔からそこにいる、

お地蔵さん、庚申塔、馬頭観音。

道ばたにおわす

神さまを訪ねて。

道ばたの神さま

誰かが
道ばたにそつと
置いた
神さま

発行：めぐろ観光まちづくり協会

〒153-0051 東京都目黒区上目黒 2-1-3 中目黒 GT 地下 1 階
TEL : 03(5722)6850 FAX 03(5722)6891

編集・デザイン：有限会社 緑心社

平成27年8月 第1刷

平成28年3月 第2刷

お地蔵さんと庚申塔と馬頭観音

通勤あるいは通学の途中。お買い物のいつもの道に。
ずっとそこに立っていることは知っていたけれど、
併んでみることもなく、5年、10年と時は過ぎていく。
私たちよりも前にこの街角にあって、私たちの去った後も、
きっとそこにあり続けるだろう“道ばたの神さま”。
少し立ち止まって、見つめてみて下さい。



道ばたの神さまが
導いてくれた発見！

庚申道
みつけた!!



(7)駒沢通りへ
(8)七ヶ坂

目黒区内の

6つのエリアで

道ばたの神さまを

訪ねて歩く

9つのコース

コース⑥

大橋、駒場周辺

一 コースいろ

山手通り
(上目黒～下目黒)周辺

コースはに

五本木、上目黒、
東山周辺

四 コースほ

柿の木坂、八雲、
東が丘周辺

三 コースほ

鷹番、目黒本町
碑文谷周辺

コースとち

緑が丘、平町、中根
自由ヶ丘周辺

道ばたの神さまが

導いてくれた発見！

**菅沼権之助
の足跡**



庚申塔やお地蔵さんを巡っていると面白いことにぶつかり、つい寄り道をしてしまいます。目黒不動通りから江戸の中心に入っていくためには、現在のJR目黒駅まで行人坂を登らなくてはなりません。あまりに急なため緩やかな新坂をということで、作られたのが権之助坂といわれています。その名の由来、菅沼権之助はといえば、中目黒村田道の名主といわれています。田道地区の高台にある十七が坂庚申塔の筆頭に権之助の名前が彫られています。また、藤の庚申の近く、西の山共同墓地には墓があり、「元禄十年八月廿五日 月桂光秋靈」と記されています。

山手通り

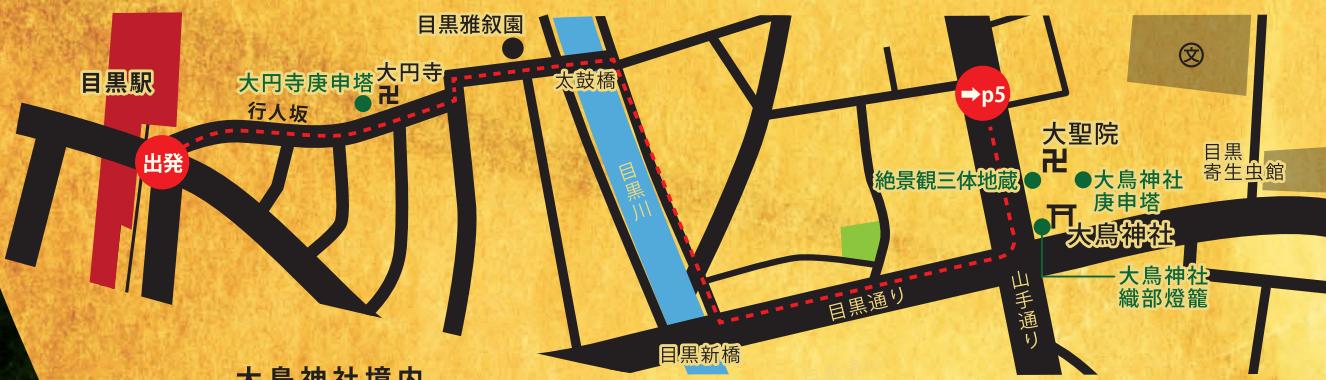
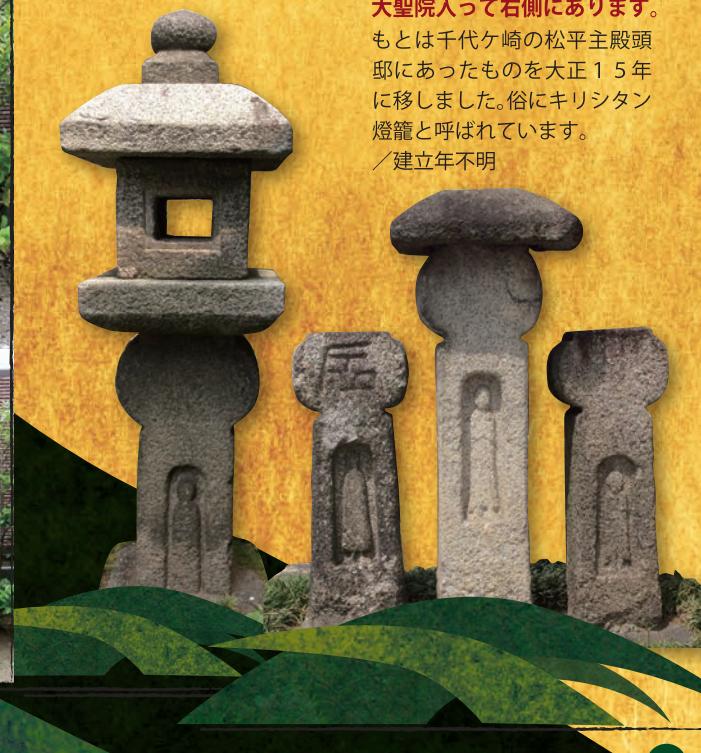


大円寺境内 大円寺庚申塔

大円寺門を入って右側に3体が納められています。

- ①板碑型(三猿)「奉供養庚申
二世安樂、祈所」／1668年
 - ②笠付型(日月・三猿)／1684年
 - ③板碑型(三猿)／1667年

向かって右写真①の像の上部にはアーンク、写真②の像にはウーンの種子が彫られて います。



大鳥神社境内
大鳥神社庚申塔

大鳥神社お社の左奥に石塔群があります。向かって右から3体、碑をひとつ飛ばして、小ぶりの1体です。屋根付型が2体見られます。

- ①屋根付型青面金剛(日月・三猿)／1688年
 - ②駒型青面金剛(日月・三猿)／1704年
 - ③屋根付型青面金剛(日月・三猿)／1688年
 - ④駒型(三猿)「奉納庚申供養二世安樂、
祈所」／1675年

大鳥神社境内
大鳥神社織部燈籠

大鳥神社はいって右側の
一角にあります。

俗にいうキリシタン燈籠で絶景観三体地蔵とともに、松平主殿頭邸にあったといわれています。／建立年不明

大聖院境内
絕景觀
三体藏

大聖院入って右側にあります。
もとは千代ヶ崎の松平主殿頭邸にあったものを大正15年に移しました。俗にキリシタン燈籠と呼ばれています。
／建立年不明



大聖院境内 みかえりの 阿弥陀道標

大聖院入って左側堀際です。



もとは行人坂を下って山手通りと交わるあたりにあり、大鳥神社や大聖院のみかえりの阿弥陀仏への道標の役割を果たしていました。正面に地蔵菩薩の尊像が彫られています。／1706年

大聖院墓地内 法印堯泰塔



丸彫型の地蔵菩薩をいたいたい墓塔。「権大僧都法印堯泰塔」。
／1813年

蟠龍寺境内 荷葉地蔵

蟠龍寺参道
入り口右側
です。



台石下部の六角形部分上面に荷葉(蓮の葉)の彫刻があるためこの名が付いたということです。／1698年

大聖院境内・墓地内 大聖院の地蔵



大聖院の墓地を入って左奥です。墓地に立ち入るときは必ず許可をとってください。

入り口を入って左側の堀際や墓地入って右側に多く祀られています。

多数の石仏があります。／1691年、1709年等



成就院境内 成就院庚申塔

成就院入って右後ろの堀際にたっています。正面上面にアンクの種子及び屋根の4面にも種子が彫られています。

屋根付型青面金剛(日月・三猿・邪鬼)「庚申待供養所」
／1696年



羅漢寺境内 羅漢寺庚申塔

不動尊参道入り口右側です。
羅漢寺入口から入ってすぐ右です。羅漢寺が本所より移転時に一緒に移ってきました。舟型青面金剛(日月・二鶴・三猿・邪鬼)／1720年



成就院境内

橋和屋地蔵

成就院庚申塔の隣にあります。

橋和屋は江戸時代に栄えた不動門前町の料理屋。左面に「釈迦牟尼佛」があり、幼くして亡くなった「清珠童女」の菩提を弔うためにたてられたものか。

/1844年



龍泉寺墓地内

龍泉寺墓地石仏群

龍泉寺墓地は林試の森の近くにあります。墓地を入って右、道路沿いの場所です。

地蔵のみならず、十一面觀音や聖觀音、馬頭觀音など多彩です。

/1663~1687年



成就院境内

お静地蔵

成就院に入ると大きな像が7体あります。向かって右から、3体の觀音様、真ん中が阿彌陀如來像、左3体がお地蔵様です。

2代将軍秀忠の側室であったお静の方が、わが子(のちの会津23万石大名保科正之)の栄達を祈願し、大願成就のお礼として奉納したのがこのお静地蔵といわれています。/建立年不明



龍泉寺墓地内

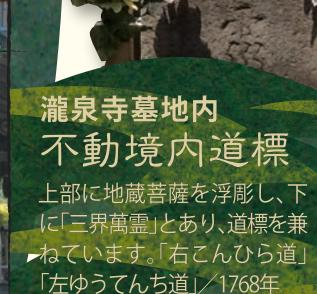
不動境内道標

上部に地蔵菩薩を浮彫り、下に「三界萬靈」とあり、道標を兼ねています。「右こんひら道」「左ゆうてんち道」/1768年

目黒通り

目黒寄生虫館

高地蔵
終点
バスで目黒駅へ



龍泉寺境内

目黒不動境内馬頭觀音
かつては高台にある目黒不動尊大本堂のそばに2体並んでいましたが、一体は平地に移動しました。仁王門を入って左に割石造り文字塔があり、角柱型は高台の大本堂左です。

割石造り文字塔「馬頭觀世音」、角柱型文字塔「馬頭觀世音菩薩」/建立年不明



目黒四丁目 26 番 高地蔵

目黒通り油面交番を曲がり、道に沿って進んだ右側のパン屋さん隣の角。道路工事で昭和9年に交番近くから移されたそうです。育児の厄払い、子育地蔵として信仰され、2月と7月の3日は供養祭が行われ、大切に守られています。

道標を兼ねた石台に、右面「是より右ゆうてんじ」、左面「是より左九ほんぶつ道」。土手の上に総高2m以上の地蔵がたっていたのが名の由来です。/1706、1766、1826年?



渋谷区猿楽町30

目切坂地蔵

目切坂を上がりきった区境の渋谷区側の道の角地です。代官山の土地柄か、モダンな屋根が付けられています。2体あるうちの右側です。

正面は「南無阿弥陀仏」「右大山道」「左祐天寺」、左面は「淨迎引説信土、如水童子、願主袋念」とあり道標を兼ねます。
/1818年



コース

中目黒一丁目 1番

別所坂庚申塔



急な別所坂を登りきると、コンクリート造の祠があり、前後3体ずつ収められています。前列右の像は胸にドクロの装身具をつけています。

- ① 駒型青面金剛(三猿) / 1680年
- ② 板碑型「奉供養南無帝釈天王」 / 1680年
- ③ 駒型青面金剛(日月・二鶴・三猿) / 1716年
- ④ 板碑型(三猿) / 1665年
- ⑤ 角柱型青面金剛(日月・二鶴・三猿) / 1764年
- ⑥ 駒型青面金剛(日月・二鶴・三猿) / 1697年



中目黒三丁目6番10
めぐろ歴史資料館敷地内

五本木組馬頭観音

めぐろ歴史資料館入口から入って正面建物の生け垣の中にあります。元は五本木小学校の西側五本木通り沿いにあつたそうです。

角柱型文字塔 正面に「馬頭観世音菩薩塚」左面に「上目黒村五本木組、宮川左治右衛門」
/1864年



目黒二丁目3番
ひいらぎ庚申

田道橋を清掃工場側から渡つて正面に赤い祠があります。風化が著しく文字が読みにくくなっています。道標を兼ねており、右に行けば新寺(長泉院)、祐天寺、左に行けば金毘羅(今はなき高幢寺)、目黒不動尊ということでしょう。

角柱型または駒型(三猿)正面「奉納庚申塔」右面「しんてら、ゆふてん寺 道」左面「こんひら、ふとう尊 みち」/1775年



目黒二丁目13番

田道地蔵

田道庚申塔群の右端にたっています。

上部に力(地蔵菩薩)の種子がある地蔵菩薩です。「権大僧都法印生榮」ほか多数の名前が像左右に刻まれています。

/1673年



目黒二丁目13番

田道庚申塔群

(区指定有形文化財「歴史資料」)

区民センター脇、ひいらぎ庚申前の道を山手通りに向かううねった道の右に瓦葺の大好きな祠があります。向かつて右端には田道地蔵があります。

- ① 板碑型青面金剛(日月・三猿) / 1677年
- ② 駒型青面金剛(日月・二鶏・三猿) / 1695年
- ③ 板碑型青面金剛(日月・二鶏・三猿・邪鬼) / 1680年
- ④、⑤、⑥ 3体とも駒型青面金剛(日月・二鶏・三猿) / 1695年、1692年、1713年

永隆寺

→ p14

十七が坂上庚申塔

十七が坂上庚申塔

十七が坂上庚申塔



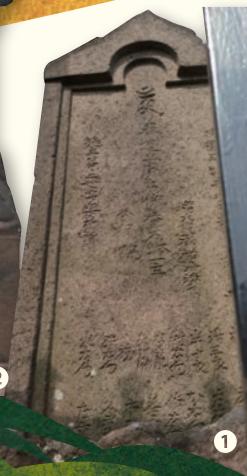
目黒三丁目3番

十七が坂上庚申塔

坂を登り切った囲いのある墓地の中になります。高さ2.25mの宝筐印塔は寛永3年(1626年)とあり、区内で最も古い庚申塔です。板碑型には上部にウンの種子(軍荼利明王)、下部に17名の名前が彫られており右端(筆頭)に「権之助」とあり、権之助坂の名のおこりになつた菅沼権之助(中目黒村田道の名主)ではないかといわれています。

① 板碑型「奉造立庚申供養石塔一宇」「権大僧都祐海印法」「施主等二世安樂祈所」「本行院」/1657年

② 宝筐印塔「庚申供養」「未来現在過去」「三世仏」/1626年



目黒三丁目21番

ばくろ坂上庚申塔

(永隆寺庚申塔)

ばくろ坂を登りきった四辻角にあります
が2m弱の高さなので、わかりづらいです。
右から2番目の板碑型には三猿のみが彫られています。

- ① 駒型青面金剛(日月・二鶏・三猿) / 1710年
- ② 板碑型(三猿) / 1680年
- ③ 駒型青面金剛(日月・三猿) / 1706年
- ④ 駒型青面金剛(日月・二鶏・三猿・邪鬼) / 1742年



長泉院境内
長泉院庚申塔
長泉院現代彫刻美術館入口
左横にひっそり立っています。近くの馬喰坂下の個人宅より掘り出されたものだそうです。立っているこの道が庚申道といわれた道です。
駒型正面に「庚申供養塔」左面に「武州荏原郡中目黒村講中」
／1789年



目黒四丁目1番 とちの木庚申

名前の由来となった傍らのとちの木は、残念ながら枯れてしまい根元が残るだけです。昭和の初め頃、現在は暗渠になっている谷戸前川で発見されました。

角柱型 正面に「庚申」右面に「中目黒村田道」／1789年



永隆寺境内 永隆寺六面塔地蔵

ばくろ坂上庚申塔とともに木庚申を結ぶ道にある永隆寺境内入って左側にあります。

六面に地蔵が彫られた石塔。出石藩主仙石政美の追悼のため大乗寺(港区三田)境内に建てられたもの。／1826年

祐天寺墓地内 祐天寺三界万靈塔

祐天寺から、通りを挟んだ墓地に入ると、正面にひときわ高い石像が見えます。

祐天寺境内にはここ以外にも子まもり地蔵など数多くの地蔵があります。／1736年



中目黒五丁目6番 藤の庚申

祠の上に藤棚があり、春は藤の花がしだれ咲きます。面している道はかつて庚申道と呼ばれ、たくさんの庚申塔があったそうです。

①板碑型(日月)「南無青面金剛」／1688年

②駒型青面金剛(日月・三猿)／1684年



天祖神社境内

天祖神社庚申塔

駒沢通りを祐天寺から下ってくると、左側に天祖神社があります。神社に入って左に木製の祠があり、2体が納められています。右の道標は社前の通り際にあったそうです。

2体とも駒型青面金剛(日月・二鶏・三猿)、①は道標を兼ねる。「是より末町さき四辻、大道九品仏道、右せたかい道、左ふとう道」②は「奉待庚申青面金剛」/①1716年、②1708年



駒沢通りに面し目黒区総合庁舎前です。

舟型青面金剛(日月・三猿)
/1695年

けこぼ坂庚申塔



中目黒三丁目2番
共同墓地内

孝子地蔵

駒沢通り、けこぼ坂を山手通りに向かって下り、正覚寺の手前小道を右に入り、2~3分歩くと左側に、間口が狭くフェンスに覆われた共同墓地の入り口がありますが施錠されています。

道路を隔てた反対側の俗に地蔵山と呼ばれた地にかつて孝子地蔵があったが、傷みが激しく、原形に倣ってつくりかえられたものだそうです。/1956年



目黒銀座商店街を駅側から入って右側の細い道の奥です。敷地左手に3体建てられています。

①浮彫半跏像塔三面八臂の馬頭観音が彫られています。背面「椎橋氏三代の名」碑文谷から移送し再建/1972年

②角柱型文字塔「馬頭観世音」。「目黒町上目黒 山崎トサ」/1931年

③割石造り文字塔「馬頭観世音菩薩」台石に「樋口氏」/1907年



上目黒二丁目14番

目黒銀座馬頭観音





石地蔵

子どもたちを見守る
地獄の責め苦からの救済
村境の守護神

かつたようです。目黒区でも有名な石地蔵といえば、境で疫病をしめきるということで世田谷区との区境にある「〆切地蔵」、蟠龍寺には「おしおい地蔵」がありますが、地蔵の顔におしおいを塗り、残りを自分の顔につけると美人になるという信仰があり、歌舞伎役者たちに信仰されていたようです。

三戸の虫をおさえる青面金剛
三年十八回の連続講の証
村人が集まり眠らぬ夜

庚申塔



※庚申塔の一例

庚申塔とは庚申信仰の結束や存在の証しとして建立されたものです。そもそも庚申信仰の起源は古く、中国の道教が起源といわれています。日本には平安時代以降貴族の間で広まり、その後仏教や神道と結びつき、江戸時代に庶民の間で最も栄えたといわれています。

解説

目黒区にも石地蔵は多数残っていますが、昨今の区画整理や道路拡張などによって、移転せざるを得なくなり、その際神社・仏閣に納められることも多

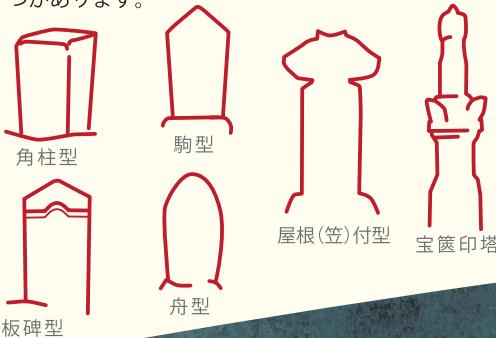
庚申信仰は十干十二支の暦のうえで、60日ごとにくる、庚申(かのえさる)の日に行われる信仰行事で不老不死を目指す道教の庚申待ちを起源とします。

人の体内には三戸(さんし)と呼ばれる虫があり、庚申の日の夜、人が眠ると体内から抜け出し、その人の行状を天帝に知らせに行く。天帝はその知らせを受けて行状の悪い人の寿命を縮めるという。よって長生きをしたければ、庚申の日は一日中起きていて三戸の虫が這い出で、天帝のところにいけないようにしてしまう、この道教の教えが庚申信仰へつながっていました。

さて、江戸時代には村の中に庚申講ができて、皆で集まり、部屋の中に庚申様「青面金剛(しょうめんこんごう)」などの絵の掛け軸を飾り、供え物をし、徹夜で飲食談笑をして過ごしたそうです。この集まりで、農作業の知識の共有化や無尽の役割もあったことから、相互扶助へと発展していったようです。そして、村の中に、3年18回の連続講の証しとして庚申塔がつくられたということのようです。

庚申塔の形には、角柱型、板碑型、駒型、舟型、屋根付型、宝篋印塔など多数あり、塔には「庚申供養」と刻まれていたり、三戸をおさえる神といわれる「青面金剛」が彫られています。青面金剛像は雲に日月、二鶏、三猿(見ざる、言わざる、聞かざる)、足下に邪鬼という多種多様な組み合わせで彫られています。

目黒区には現在70の庚申塔が残されています。最も古いのは1626年と銘がある「十七ヶ坂上庚申塔」です。また区指定有形文化財(歴史資料)には、「田道庚申塔群」「五本木庚申塔群」「鉄飛坂庚申塔群」の三つがあります。



憤怒の形相三面六臂

馬の御靈を慰める
馬に縁深い土地の証



馬頭觀音

馬頭觀音は仏教における信仰対象である菩薩の一尊で観音菩薩の変化身の一つです。観音菩薩といえば、柔軟相というイメージは多いのですが、憤怒相のゆえんは、慈悲では救い難い衆生を怒りの姿で救い上げようとするからだといわれています。

頭上に馬を置き、三面六臂(三つの顔、六本の手)や八臂など様々です。胸前では馬の口を模した「根本馬口印」という印相を示し、残りの手には、剣や斧、金剛棒、数珠、輪宝などを持ち、また蓮華のつぶみを持つこともあります。

仏教の教義に基づく馬頭觀音は本来、人を救済するわけですが、江戸時代中期を過ぎるころから、馬は農耕用となり、農民や商人が利用するようになると、馬を守り死後はその菩提を弔う觀音様という考えがでてきました。結果として、倒れた馬を埋めた場所や道の辻に、馬の靈を慰める供養塔として馬頭觀音が建てられました。明治以降、運搬用など使用が増すと、その傾向は強くなっています。目黒区はその名通り馬に縁のある土地。それだけ馬頭觀音も多く、区内に十数基残されています。「馬頭觀世音」の文字だけ彫られた石碑は、多くが馬の供養として、祀られたものです。

東山周辺 上目黒 二 五本木

コースは
学芸大学駅から

コースに
祐天寺駅から



五本木三丁目27番 四郎兵衛地蔵

駒沢通りから五本木三丁目26と27の境の道に入ると、左側に祠があります。

小堂内に3体あり中央と右は地蔵です。元は世田谷区にあったといわれています。／建立年不明



中央町二丁目38番 こぶとり 庚申

「学芸大学」駅から線路沿いをJpan Templeに向かって約5分、左側に小さな脇道があり、こぶとり庚申はその右側に。風化が激しいのですが、中央の像は山王の使者である猿と思われます。

駒形、猿の像(日月)「再興青面金剛、守護」
/1690年



五本木三丁目11番

五本木三丁目馬頭観音

五本木西みどり街かど公園の前です。二つの祠があり、大きいほうの祠の3体の内の右と左、そして小さい祠の1体です。

- ① 角柱型文字塔「馬頭觀世音」/1923年
- ② 浮彫半脚像塔は立派なたがみの馬頭をいただく三面八臂の觀音/建立年不明
- ③ 角柱型文字塔「馬頭觀世音」/建立年不明



五本木三丁目11番 五本木三丁目 庚申塔

五本木西みどり街かど公園前に大小2つの祠があります。大きいほうには3体、小さいほうに1体納められていますが、大きいほうの真中が青面金剛です。

舟型 青面金剛(二臂です)/1731年





五本木二丁目20番 (区指定有形文化財「歴史資料」)

五本木庚申塔群

目黒区立守屋図書館の裏の小道(旧鎌倉街道といわれている)に大きな木がこんもり茂った場所があります。昔の面影を残すこの御堂の像は保存状態が良いです。一番右の像は珍しい八臂です。

- ① 駒形青面金剛(日月・二鶏・三猿・邪鬼)八臂／1761年
- ② 駒形青面金剛(日月・三猿)／建立年不明
- ③ 駒形青面金剛(日月・二鶏・三猿)／1686年
- ④ 駒形青面金剛(日月・三猿)／1695年
- ⑤ お堂外左側「庚申供養塔」「上目黒五本木組」／1810年



五本木二丁目20番 五本木地蔵

庚申塔の特徴である、日月が上部に彫られているため、庚申供養塔の可能性もあるが文字が判読できない。

五本木庚申塔群の右端に並んでいます。「元禄」の文字だけ確認できます。



祐天寺二丁目15番 昭和通り地蔵

祐天寺昭和通り沿いの小堂内に安置されていますが、気を付けていないと見落とします。

風化が進んでおり、造形がはっきりしなくなっています。
／1708年



駒沢通り沿い祐天寺二丁目交差点そばに、立派な瓦葺のお堂があります。瓦の上に猿がのっています。近くにさわらの木があったのでこの名前がついています。庚申塔が納められているお堂の鬼瓦などには、柴又題経寺(柴又帝釈天)の寺紋(菱形の渦巻)がついています。

- ① 板碑型「献開眼帰命帝釈天王」等／1663年
- ② 舟型青面金剛(日月・三猿)／1692年
- ③ 駒形青面金剛(日月)／1697年

中町二丁目38番
さわら庚申



寿福寺境内 寿福寺庚申塔

オカメザクラで有名な寿福寺門前に立つ庚申塔です。

舟型青面金剛、合掌しておらず、剣を持っています。／1666年

寿福寺境内 相生地蔵

寿福寺門前に2体安置されています。2体とも寿福寺の住職の名前が刻まれています。

- ①「奉建立地蔵尊」「上目黒邑五本木、願主中、敬白」／1765年
- ②「天下泰平、国土安全、各願円満、如意吉祥」／1759年



寿福寺墓地内 寿福寺馬頭観音

寿福寺の墓地の中、右奥にあります。

- ①駒型浮彫坐像塔「馬頭観世音」／建立年不明
- ②角柱型文字塔「馬頭観世音菩薩」カン(馬頭観音)の種子あり。／1855年



上目黒五丁目5番 宿山庚申 庚申地蔵

宿山庚申の中に並んでいます(真中)。区内唯一の地蔵庚申です。

上部に力(地蔵菩薩)の種子があり、地蔵菩薩が彫られています。光背に「奉造立庚申供養為二世安樂也」とあります。／1675年

東山一丁目24番 東山 馬頭観音

東山中学校東側の歩道に祀られており、この辺りは陸軍駒沢練兵場があった所で軍馬の供養のため陸軍「第三中隊」が建てたものです。

角柱型文字塔 正面に「馬頭観世音」／1922年



上目黒五丁目5番 宿山庚申

寿福寺前バス停の辻にあり、比較的わかりやすい場所です。

① 角柱型青面金剛(日月・二鶏・三猿)／1692年 もとは上部に笠が付いていましたが、現在は脱落しています。

② 舟型青面金剛(日月・二鶏・三猿)／1708年





三 鷹番 目黒本町



鷹番一丁目5番1 鷹番馬頭観音

目黒通り鷹番のバス停そばです。目黒方面に向かって左側の小道に入った三叉路の角です。この小道は旧二子道で右面にその名前が見られます。

碑文谷六丁目9番 碑文谷 延命地蔵

碑文谷公園東南入口横にあります。
台石に「延命地蔵尊」とあります。
/1943年



浮彫坐像塔 台石に「武州比企郡諏訪山妙安寺」とあり、目黒銀座観音同様埼玉県東松山市妙安寺から勧請されたものだそうです。道標を兼ねており、右面と左面には道の名前が見られます。
/1850年



目黒本町一丁目10番 清水庚申

東急バス「渋71系統」のバス停「清水庚申」そばの四つ角です。

角柱型「南無妙法蓮華経」「庚申講中」道標を兼ねています。
/1854年



鬼子母神堂境内 十羅刹下馬頭観音

鬼子母神堂境内入って右側です。
→p28

②駒形浮彫坐像 十羅刹下と呼ばれていた目黒本町5丁目24番あたりにあったといい、道標を兼ねています。確認しづらいですが、正面下部に馬頭観音が彫られています。
/1881年

鬼子母神堂境内 文右衛門窪馬頭観音

①角柱型文字塔 文右衛門窪とは、目黒本町2丁目1~2番、1丁目8~9番当たりの地名。大正時代に移転してきたらしい。碑面には「碑文谷村馬持中」と世話を人の名があります。
/1827年





円融寺墓地内 門前地蔵

この墓地は碑小学校正門を背にして進み、100mほど行くと右側です。地蔵は管理人の住宅内玄関横ですので、必ずお声掛けをしてください。

腰のあたりに折れた跡があり、修復したようです。
/1707年

碑文谷一丁目18番 碑小前庚申塔

碑小学校の北東角地に祀られています。角柱型「庚申供養」道標を兼ねる。昭和31年に再建。旧碑は円融寺東門に建っていました。
/1956年



正泉寺境内 文子地蔵

正泉寺入って左側です。病気で早世した女の子(名前:文子)の追福のために建てられたものです。
/1921年



高木神社境内 子ノ神庚申塔

碑文谷八幡宮そばの高木神社入って左にたつています。「子(ね)の神」の子とは北のこと、北辰の神、ねずみ使いとする大黒天とする説もあります。この庚申塔は、元は環七通りの南交差点あたりに建てられていたそうです。道標を兼ねており、4面に地名が記されています。

角柱型:背面に「武州荏原郡、碑文谷村、庚申講中」
正面「南 丸子、池上、新田道」
右面「東 品川、大森道」
左面「西 九品仏、二子道」
背面「北 目黒、仁王尊道」
/1788年



円融寺境内 金竜地蔵

円融寺駅迦堂(旧本堂)脇の墓地入口前にあります。竜の上に左足を立てた半跏の延命地蔵。元は新宿区神楽坂の行元寺にあり、その後西五反田に移され、さらに円融寺に移建された。台石の縁起の書は西川春洞によるものです。
/1894年



四

東が丘周辺 柿の木坂八雲

都立大学駅から目黒通りを
碑文谷に向けて、登っていく
と、左側に脇道があり、そ
の住宅街の一角、個人住宅
内に門扉越しに見ると小堂
が祀られています。

古とは目黒通りのあたりに
あったそうですが、現在は
個人の方が大切に守られて
います。個人宅敷地内です
ので、立ち入ることはでき
ません。

碑型「妙法奉寄進庚申
共養」／1670年



柿の木坂一丁目7番 柿の木坂一丁目 庚申塔



氷川神社(八雲)境内 大辻の庚申

昭和の初め頃まで、柿の木坂の畠の
あぜ道にあったそうですが、耕地整
理などで幾度も移され、昭和63年
に柿の木坂ゴルフガーデン脇に移
設。平成23年マンション建設工事
に伴い、氷川神社拝殿裏右奥に移設
されました。



①板碑型(三猿)「奉待庚申
□伸石塔一尊建立供養為」
上部に元/1674年

②駒形青面金剛(日月・二
鶴・三猿・邪鬼)/1749年



東光寺境内 東光寺の地蔵

東光寺門前向かって
左の小堂に納められ
ています。
建立は元禄15年と伝
えられています。
／1702年



常圓寺墓地入ってすぐ右側の小堂に2体の地蔵菩薩が祀られています。

向かって左は広島市西蓮寺にあった子育て地蔵で、昭和20年8月6日の原爆で破壊され、頭部だけが残り、その後、縁あって目黒に移され、現在は「子育て被爆地蔵」として常圓寺に祀られています。／建立年不明



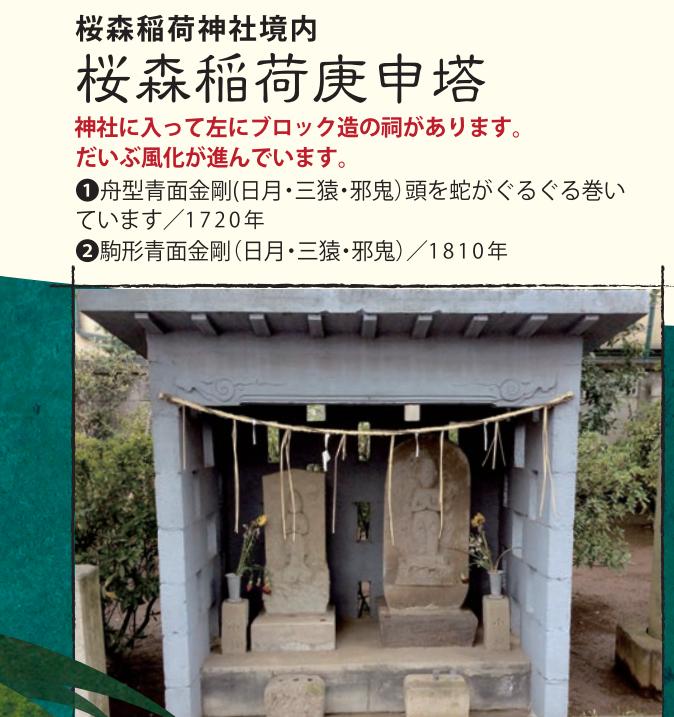
都立大学



常圓寺墓地内 常圓寺の地蔵 (子育て被爆地蔵)







道ばたの神さま巡礼の途中で



みんなで集つて
敬つて、守つてる。

人知れず電信柱の陰や生け垣に埋もれるお地蔵さんや庚申塔、馬頭観音がある一方で、花やお供え物の絶えないものにも出会います。

藤の庚申のご供養祭

毎年5月5日に、ご近所の永隆寺さんにより、庚申塔にご供養のお経があげられます。大人に交じり、沢山の子どもが参加しますが、お土産に配られるお菓子が毎年楽しみだそうですよ。



夏の高地蔵尊祭り

このお祭では、祐天寺のお坊さんがお経をあげて供養します。ご近所のみなさんも参拝に訪れ、トウモロコシや綿菓子、ビール等の屋台が賑わいを見せっていました。お地蔵さまの見守る街角に、今もたくさん的人が集います。

ずっと昔から、当たり前のようにそこにあった神さまも、道路や住宅の都合で別の場所に移されるものもあります。

長い年月が経つと、かつてはここにあったはずなのにどこかへ行ってしまった神さまが沢山います。建てられた当時は畠のあぜ道であっても、数百年たてば、マンションの駐車場に変わってしまうこともあります。道路拡張工事に引っかかってしまいます。中には取り壊されてしまったものもあるといいます。運よく引き取り手が見つかったものは、個人宅や近くの神社やお寺におさめられているようです。

昨今の例で言えば、2011年11月大辻の庚申が柿の木坂ゴルフガーデンの駐車場脇から、八雲氷川神社の境内に移されました。安住の地が見つかってよかったです。

いつのまにか 移動する庚申さま



(写真：目黒区提供)



さくいん

あ	相生地蔵	23
	五十嵐宅庚申塔	31
	碑小前庚申塔	27
	浦村宅庚申塔	31
	永隆寺六面塔地蔵	13
	大辻の庚申	29
	大鳥神社庚申塔	4
	大鳥神社織部燈籠	4
	お静地蔵	7
	おしおい地蔵	5
	柿の木坂一丁目庚申塔	29
	荷葉地蔵	5
	金竜地蔵	28
	熊野神社庚申塔	35
	栗山家馬頭観音	35
	けこぼ坂庚申塔	15
	庚申地蔵	24
	こぶとり庚申	19
	五本木組馬頭観音	10
	五本木庚申塔群(区指定有形文化財)	21
	五本木三丁目庚申塔	20
	五本木三丁目馬頭観音	20
	五本木本地蔵	21
	桜森神社庚申塔	34
	さわら庚申	22
	三十間堀馬頭観音	8
	清水庚申	26
	〆切地蔵	36
	十七が坂下庚申塔	12
	十羅刹下馬頭観音	26
	宿山庚申	24
	寿福寺庚申塔	23
	寿福寺馬頭観音	23
	常圓寺の地蔵(子育て被爆地蔵)	30
	成就院庚申塔	6
	昭和通り地蔵	22
	四郎兵衛地蔵	19
	絶景觀三体地蔵	4
た	大円寺庚申塔	3
	大聖院の地蔵	5
	平町庚申塔	34
	平町馬頭観音	34
	孝子地蔵	16
	高地蔵	8
	鷹番馬頭観音	25
	瀧前町講中道標	8
	長泉院庚申塔	13
	鉄飛坂庚申塔群(区指定有形文化財)	33
	天祖神社庚申塔	15
	田道庚申塔群(区指定有形文化財)	11
	田道地蔵	11
	東光寺の地蔵	30
	とちの木庚申	13
	中根西三叉路庚申塔	35
	中根西三叉路馬頭観音	35
	子ノ神庚申塔	28
	ばくろ坂上庚申塔(永隆寺庚申塔)	12
	橋和屋地蔵	7
	ひいらぎ庚申	10
	東山馬頭観音	24
	碑文谷延命地蔵	25
	藤の庚申	14
	不動境内道標	7
	文子地蔵	27
	文右衛門窪馬頭観音	26
	別所坂庚申塔	9
	法印堯泰塔	5
	松見坂地蔵	36
	みかえりの阿弥陀道標	5
	緑が丘庚申塔	32
	緑が丘地蔵	32
	目切坂地蔵	9
	目黒銀座馬頭観音	16
	目黒不動境内馬頭観音	8
	門前地蔵	27
	祐天寺三界万靈塔	14
	羅漢寺庚申塔	6
	瀧泉寺墓地石仏群	7

※本冊子は平成27年7月末日の現況をもとに作成されており、石像の状態や設置位置などは変わることが考えられますので、ご注意ください。

参考文献

「めぐろの文化財 増補改訂版Ⅲ」目黒区教育委員会